

## 2021 年度活動概要

## オーラルコミュニケーション研究会

コロナ下2年目となった今年度は、状況に応じてオンラインや対面、併用でそれぞれの特徴を生かしながら様々な活動を精力的に実施しました。

夏の JACET 国際大会においては、2020 年 12 月に実施したオンラインによる Oral Communication Festival (第 25 回 OCF。会員が指導する学生ならびに教員自身の劇や朗読、スピーチなどオーラル・コミュニケーション活動の発表・相互評価の場) の概要と成果、課題を、研究会メンバー5名(野村・大川・ムーディ・佐伯・塩沢)が動画やスライドを用いて発表しました。活発な討議がなされ、研究会の主行事である OCF の意義が広く認識されました。

8 月末には研究会の研修の一環として、講師に演劇教育家オーハシ・ヨースケ氏を招き、教員と学生を対象に絵本ワークショップをオンラインで行い、参加者から好評を得た。適宜ブレイクアウトルームを活用し、複数の大学の学生が協働作業で話の展開を予測したり、演じあったりし、オンラインの可能性が広がりました。

毎年 12 月に開催する、恒例行事の OCF は、コロナ感染の状況を踏まえ、今年度は対面とオンライン(ZOOM)併用で 12 月 18 日(土)に文教大学あだち校舎で実施しました。会全体を常に ZOOM で配信しつつ、前半に来校できない大学がオンラインで事前に収録して YouTube に搭載した作品を共有する形で鑑賞・評価し、後半は対面の大学のホールで生で演じる、という流れで行いました(zoom 参加: 南山大学、公立鳥取大学、明海大学。対面参加: 甲南大学、名古屋外国語大学、青山学院大学、日本大学、文教大学)。従来通り、相互評価を重視し、聴衆はオンラインの場合はチャットで、対面では用紙に発表直後にコメントを記入し、事後に共有しました。最後は参加者全員でクリスマスソングを輪になって歌い、オンライン・対面とも心をひとつにしました。OCF 終了後に “After Talk” セッションを学生の司会進行でハイブリッド状態で日本語で行い、発表の裏話などを語り合い、和気あいあいとした雰囲気締めくくりました。

2022 年 3 月に朗読家の青谷優子氏を招き、オンライン朗読ワークショップを JACET の補助金を一部活用して実施予定です。氏は元 NHK 国際報道アナウンサーという経験を活かし、Read Alive を主張して教育活動をされています。本研究会のメンバーならびに学生を対象に 2 つの作品を指導していただく予定です。研究会活動に更なる刺激になると期待しています。